

ごみ施策の今後は？



岩井 美保子 議員

町長 あらゆる方法を検討する



耐用年数がせまった名和クリーンセンター

【岩井】米子市と本町との可燃ごみ焼却事務の委託は、平成27年度で契約が満了する。今後の取り組みはどうなっているのか。

【町長】現在、西部広域では、米子市に全町村が持ち込むのか、または西部広域で新しく焼却炉を建設したほ

うが経費が少ないのか、これに合う補助制度があるのかを検討している。

本町は名和クリーンセンターの耐用年数などを考慮し、焼却炉の新設・民間委託・米子市への全量委託なども検討する。



検診で早期発見を

重複受診・検査の対策は？

町長 オンライン化は経費がかかる

【岩井】重複受診・重複検査など、日常茶飯事で行われている。医療費がかさみ、国民健康保険税が上がるばかりだが、その対策は。

【町長】現状は医療機関が検査結果をデータベース化して、一本化していく方法ではない。

効果があると判断したら進めていくべきであるが、オンライン化は、電子カルテが必要となり、とても経費がかかる。県西部でも西伯病院・日南病院は電子カルテ化、医大とのオンライン化が進んでいる。

テレビ報道は？

町長 反響を呼んだ

【岩井】NHKの番組「鶴瓶の家族に乾杯」で本町が紹介された。これを機会にもっとPRできないか。

【町長】大きな反響を呼んだと思う。本町を紹介してもらうことは、そのPR効果が大きいので、これからも積極的に取材協力していく。

今後もメディアを活用したPR、「大山」というネームバリューがあり、取り組みが継続していけるように、話題づくりも行いながら、情報提供をしていく。